

母性看護学実習記録

実習場所			
実習期間	年 月 日 ~	年 月 日	
大学名	九州看護福祉大学 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

毎日の実習記録（母性看護学）

実習施設

学籍番号

氏名

年 月 日（ ）

本日の目標	行動計画
実施内容・得られた結果	考 察
指導者のコメント	

* 翌朝、実習指導者に提出する

九州看護福祉大学 看護学科

データベースアセスメント

受け持ち日： 年 月 日 ()

妊産褥婦 () 氏 学籍番号

氏名

立案日： 年 月 日 (NO.)

情報	アセスメント	まとめ

関連図

学籍番号：

氏名：

妊産褥婦（ ）氏

作成日

年 月 日（ ）

診断リスト

関連図

看護過程

妊産褥婦()氏 学籍番号

氏名

受け持ち日: 年 月 日()

立案日: 年 月 日 (NO.)

看護診断とその根拠	目標と看護計画	実施結果	評価・考察

受持ち事例の要約

受持ちイニシャル：

学籍番号：

氏名：

母性看護学実習評価表

学籍番号:	氏名:	実習施設:	
実習期間:	年 月 日 ~ 月 日		
出席状況:	出席 日、 欠席 日、 遅刻 回、 早退 回		
評価項目		学生	指導者
I 実習目的・目標達成度80点(5点×16)			
1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができる。			
1) 妊娠・分娩・産褥、新生児の生理を述べることができる。	A B C D	A B C D	
2) 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。	A B C D	A B C D	
2. 周産期の母子とその家族のケアニーズを明らかにし、個別的な援助ができる。			
1) 対象者の情報を系統的に収集し、総合的に関連づけてアセスメントすることができる。	A B C D	A B C D	
2) アセスメントに基づき、対象者のケアニーズを明らかにし、看護上の診断を抽出できる。	A B C D	A B C D	
3) 母子とその家族に対して、根拠に基づいた看護が計画できる。	A B C D	A B C D	
4) 個別性を踏まえた看護計画を立案できる。	A B C D	A B C D	
5) 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した個別的なケアを実践し、評価できる。	A B C D	A B C D	
3. リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。			
1) 周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題について考えることができる。	A B C D	A B C D	
2) 対象者の健康課題を踏まえた健康教育の意義、方法について考えることができる。	A B C D	A B C D	
4. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。			
1) 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。	A B C D	A B C D	
2) 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源について学び、妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。	A B C D	A B C D	
3) チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。	A B C D	A B C D	
4) グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。	A B C D	A B C D	
5) 看護学生として基本的な行動がとれる(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど)。	A B C D	A B C D	
5. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。			
1) 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。	A B C D	A B C D	
2) 今後の学習課題について述べるができる。	A B C D	A B C D	
II 実習への参加態度・記録の提出 20点(5点×4)			
1) カンファレンスの運営・参画を積極的に行なうことができる。	A B C D	A B C D	
2) 実習目標の達成に必要な知識を予習・復習することができる。	A B C D	A B C D	
3) 積極的・自主的に実習に参加できる。	A B C D	A B C D	
4) 指定された記録物を期限内に提出できる。	A B C D	A B C D	
評価点合計(I+II)		点	点
最終評価		A B C D	
学生自己評価			
指導者評価			
サイン			
〈評価基準〉A5点 B4点 C3点 D2点			
A:よくできた(わずかな指導・助言でほとんどできる) B:できた(少しの指導・助言でできる)			
C:普通(多くの助言・指導があればできる) D:できなかった(常に多くの指導・助言を必要とする)			

グループカンファレンスの記録（第 回）

日時	年 月 日 曜 時 ~ 時	実習場所
出席者	(指導者)	
	(学生)	
カンファレンステーマ：		
テーマを選択した理由：		